

## 祭りのゴミ問題

3年2組8番 蔵田春哉  
 10番 小西朝陽  
 3組22番 仲里皇唯  
 26番 中谷隼  
 30番 藤井晴也

Keyword: 「祇園祭」「外国人観光客」「リユース食器」「環境」「ゴミ」

## 1. はじめに

私達がこの探究テーマを選んだきっかけは近所で開催されていた夏祭りの様子を見たことだ。ゴミ箱が置いてあるのにも関わらずポイ捨てがされていたり、箱からゴミがあふれていた。そこで日本の大規模な祭りではポイ捨てされたゴミを減らすためにどういった対策をしているのだろうかと考えた。また、海外からの観光客も集まるため、ごみの量との関係性があると考えた。

ポイ捨てを減らす方法を広めることができれば日本の風景を少しはきれいにする事ができるだろう。そのためにも多くの人にポイ捨てを減らす対策を知ってもらいたいと思っている。

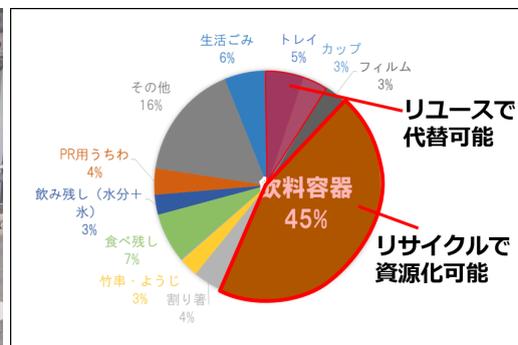
## 2. 序論

ゴミによる問題というのはもちろん環境問題に関わっている。ゴミの焼却時にはCO2が大気中に排出され、環境汚染や地球温暖化の進行に影響している。他にもポイ捨てにより景観が壊されることもある。これをはじめに書いたように祭りでのゴミ問題について注目し、探究した。

実際に〈写真1〉のように祇園祭では大量のポイ捨てにより景観の破壊がされていて大きな問題となっている。また、天神祭では2日間で60トン、祇園祭でも30トンものゴミが排出されている。しかし、「天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会」によるとこのうちの約半数の容器はリサイクル・リユースが可能であるとわかり〈写真2〉、この両祭りではこの現状を見て「リユース食器」というものを導入した〈写真3〉。リユース食器とは、紙やガラスの食器に代わり、繰り返し洗い使用できるポリプロピレン製の食器である。これはリユース食器ネットワークという団体が取り扱っていてそのシステムを構築する手助けを行っている。前述の通り、リユース食器は再利用可能であることが特徴で、軽さや耐熱性により100回以上の使用ができる。これは祭りだけでなく他の導入例としてサッカー場や音楽イベントなど幅広く使われている。



〈写真1〉祇園祭の現状(カンテレnews)(2024)



〈写真2〉天神祭でのゴミの内訳(2019)



〈写真3〉リユース食器

### 3. 本論

私たちは初めに、京都府精華町で開催されている「精華祭り」のボランティアに参加し、ゴミがどの程度落ちているかを調べた。そこでは、「Rethink PROJECT」という団体がゴミの分別や回収等を行っていた。その団体は、来場者にゴミ袋を配布し、ゴミを持ち帰るように声かけをしていた。そこで、私たちは40分間ゴミ拾いをした。来場者が多かったので予想ではたくさんのゴミが散乱していると思っていたが、結果は予想とは異なり、2つほどしか見つからなかった。

なぜゴミが少なかったのかを考察すると一つの仮説に辿り着いた。それは、冒頭に書いたように人による呼びかけである。この祭りでは出入り口で分別を行っている団体とは別の人がゴミ袋を来場者に配布していた。そのゴミ袋にゴミをいれて各家庭に持ち帰るように呼びかけていた。この行動がゴミを大きく減らしたと私たちは考えた。

だが、精華祭りは規模の小さい祭りかつインバウンドの数が少ない祭りだったので、規模の大きい祭りでも同じようなことが言えるのか私たちは疑問に思った。そこで私たちは日本三代祭りである「祇園祭」のゴミ拾いのボランティアに参加した。ボランティアの目的は、前述の疑問を解消すること、そして新たな問いを発見すること、黙示できる部分でどのような政策が取られているかを実際に見るために祭りに赴いた。

そこで見た現状は精華祭りとは少し違うが、ポイ捨てを防ぐためにボランティアの方々が祭りに来た人にゴミ箱の位置を教えたり、持っているゴミを預かり分別してゴミ箱に捨てていた。もちろん、外国人観光客などにも同じ対応をしていた。我々も同じように祭りに来ていた観光客に呼びかけたところ、祭りに来ていた方々はゴミを分別して捨ててくださっていた。



このことから想像していたよりも、人による簡単な声かけやゴミ箱を一定のエリアごとに設置することでポイ捨てを急激に減らすことができるということがわかった。この祭りではリユース食器も、数は多くなかったが使われており、使われているだけゴミが減っているのだと感じた。ゴミ箱の位置に関しては約20メートルほどの間隔で設置されており我々の持ち場からも隣のゴミ箱が見える距離であった。この近い距離に置くことで食べ物を買った人がゴミ箱を探す手間を減らし、積極的にゴミを捨てられるようにしていると思った。

#### 4. 結論

今回の探究を通して、私たちは祭りで発生するゴミの量や、ポイ捨ての原因、そしてそれを減らすための取り組みについて理解を深めることができた。特に、「リユース食器」の導入や、人による声かけ・呼びかけの効果が大きいことがわかった。精華祭りや祇園祭の現場での観察からも、来場者一人ひとりへの小さな働きかけが、ゴミ削減に確実に結びついていることを実感した。また、ゴミ箱の設置間隔や位置の工夫など、環境づくりの重要性にも気づくことができた。

一方で、今後の課題としては、祭りの規模や来場者の国籍によって、効果的な方法が異なるのではないかとこの点が挙げられる。特に海外からの観光客に対しては、日本語以外での案内表示や多言語での呼びかけが必要になるだろう。また、リユース食器の普及にはコストや衛生面の問題、洗浄方法など、まだまだ課題が残されている。

これらを解決するためには、自治体やボランティア団体、企業が協力して持続的な仕組みを作ることが重要である。今回の探究を通して、ゴミ問題の解決は大きな技術や制度だけでなく、一人ひとりの意識と行動の積み重ねによって成り立つものだと学んだ。今後は、祭りだけでなく日常生活の中でもポイ捨てを減らす取り組みを広げ、日本全体がより美しい環境を保てるような社会づくりを目指していきたい。

#### 5. おわりに

今回の探究を通して、私たち自身の中で「ゴミを出さないこと」「ポイ捨てをしないこと」は当たり前のことだと思っていたが、実際にはそれを実行に移すことの難しさと、呼びかけ一つで大きく行動が変わるという現実を知った。特にボランティアとして実際に祭りに参加したことで、環境問題を「他人事」ではなく「自分事」として考えるようになった。以前よりも日常生活でゴミの分別やリサイクルに意識を向けるようになり、身近な人にも自然と環境への配慮を伝えたいと思うようになった。また、この探究を通じて、一人の行動が社会を少しずつ変えていけるという実感を得た。今後は、自分自身の生活の中でも環境に優しい選択を心がけるとともに、地域のイベントや学校での活動を通して、周囲の人にも環境意識を広げていけるような生き方をしたい。

#### 6. 参考文献・出典

「天神祭ゴミゼロ大作戦について」『天神祭ゴミゼロ大作戦』2025年9月

(<https://www.tenjin-gomizero.jp/about/>)(2025)

「祇園祭ゴミゼロ大作戦について」『祇園祭ゴミゼロ大作戦』2025年9月

(<https://www.gion-gomizero.jp/about/>)(2025)

「リユース食器でゴミやCO2を減らそう!」『リユース食器ネットワーク』2012年3月

([https://www.reuse-network.jp/upload\\_documents/reusenetwork\\_pamphlet.pdf](https://www.reuse-network.jp/upload_documents/reusenetwork_pamphlet.pdf))(2025)

「リユース食器とは」『祇園祭ゴミゼロ大作戦』2012年3月(<https://www.gion-gomizero.jp/reuse/>)(2025)

「祇園祭の惨状(関西テレビ「newsランナー」特集2024年5月9日放送より)」

『カンテレNEWS』(<https://www.ktv.jp/news/feature/240507-kyoto/>)(2025)

「日本三大祭のひとつ「天神祭」をごみゼロに！」『天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会』2019年  
(<https://congrant.com/project/tenjingomizero/905>)(2025)

「リユース食器とは」『NPO法人ワーカーズコレクティブ風車』<https://reuse-fuusha.net/reusable>(  
2025)

「日本におけるリユース食器の取り組み」『リユース食器ネットワーク事務局』  
[https://midorinoc.sub.jp/wp-content/uploads/2019/02/dd326c3d06ae92e33b81541138e5c943  
.pdf](https://midorinoc.sub.jp/wp-content/uploads/2019/02/dd326c3d06ae92e33b81541138e5c943.pdf)